

わたしのせんせい

ぶん：むらかみ さちこ
え：くらもり



鳥取大学医学部地域医療学講座 監修

絵本作成 記者発表

鳥取大学医学部 地域医療学講座

助教

李 瑛

概要

- 鳥取大学医学部 地域医療学講座は家庭医療のアピール・幼児の医療への理解の促進を目的に絵本を作成した

- ①医療への理解を絵本という媒体を通して行う
- ②鳥取県西部の地元の特化した絵本の作成
- ③地域のクリエイティブスクールとのコラボ

といった点が本企画の特色である



鳥取大学医学部 地域医療学講座

- 2010年に設立
- 総合診療医・家庭医として臨床・教育・研究を行っている
- 所属教員に家庭医療専門医が4人在籍
- サテライト病院や診療所での臨床をはじめ、医学生や専攻医への教育を行う

鳥取大学医学部
地域医療学講座

地域医療学講座について 総合診療医を目指す皆さんへ 学生の皆さんへ 地域の皆さんへ お問い合わせ

鳥取大学医学部
地域医療学講座

地域の皆さんへ

「医療」という切り口で地域の皆さまと関わり、「地域の専門医」として支えることが使命です。実際に地域医療の専門医たちが課題解決のためにおこなっている活動を、リアルな現場からお伝えします。

[詳しくはこちら](#)

鳥取で未来の医療にチャレンジする

**3つの思い
Vision**

1. 開拓の心を持ち続けます 地域医療の先駆者となるべく、新しい事業に積極的に取り組みます。
2. 医療の切り口で社会と関わります 「あなたの専門医」、「地域の専門医」として支えています。
3. 情熟を持つ人を応援します 年齢による垣根をなくし、誰もがのびのびと仕事ができる環境をつくります。

背景

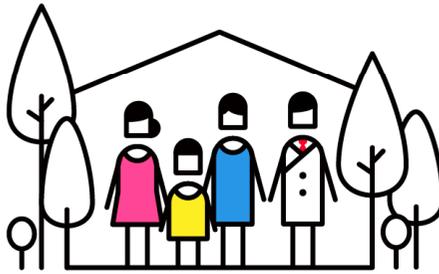
- 家庭医はかかりつけ医として英国をはじめ、海外では非常に重要な位置を占めている。特定の臓器だけではなく個人やその背景の家族・地域に対してもアプローチを行っている
- 国内の家庭医の絶対数が少ないこともあり、家庭医への認知は低く、「気軽に何でも相談できる存在である家庭医」についてのアピールは当講座の課題の一つでもあった
- 医療の理解、という点において幼児にとって、「病院・診療所は痛いことをする場所」というネガティブなイメージをもっており、こうした世代にもっと医療を身近に感じてもらいたい

目的

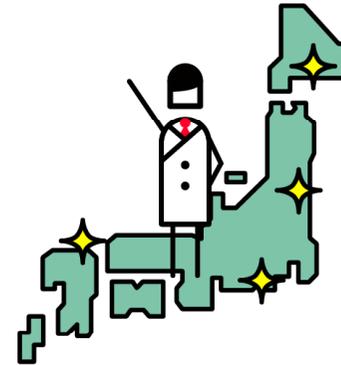
- 家庭医療の魅力をアピールする、幼児の医療への理解の促進、地域に根づいた活動を行う当講座を知ってもらう



患者を多角的に診る



家族・生活背景まで診る



地域全体を診る

経過

- 当講座のHP作成にも携わっているクリエイティブスクールの卒業生やイラストレーターとオンラインで会議を重ねながら原案、ストーリーを作成
- 非医療従事者であるメンバーに、家庭医療や当講座の取り組みを紹介
- コロナ禍であったためほぼ全てオンラインでのミーティングとなった(2020年秋~冬)



工夫したポイント①(ストーリー)

- 主人公の「ぽんちゃん」が体調を崩し、不安いっばいでお医者さんのもとを訪れる
- お医者さんは優しく話を聞いてくれて、薬を飲んで元気になったぽんちゃん
- その後、ぽんちゃんがお医者さんと一緒に町を歩いていると、様々な人から様々な訴えがお医者さんに寄せられる
- そこでぽんちゃんが目の当たりにしたのは、お医者さんが彼ら一人ひとりに向き合っていく姿

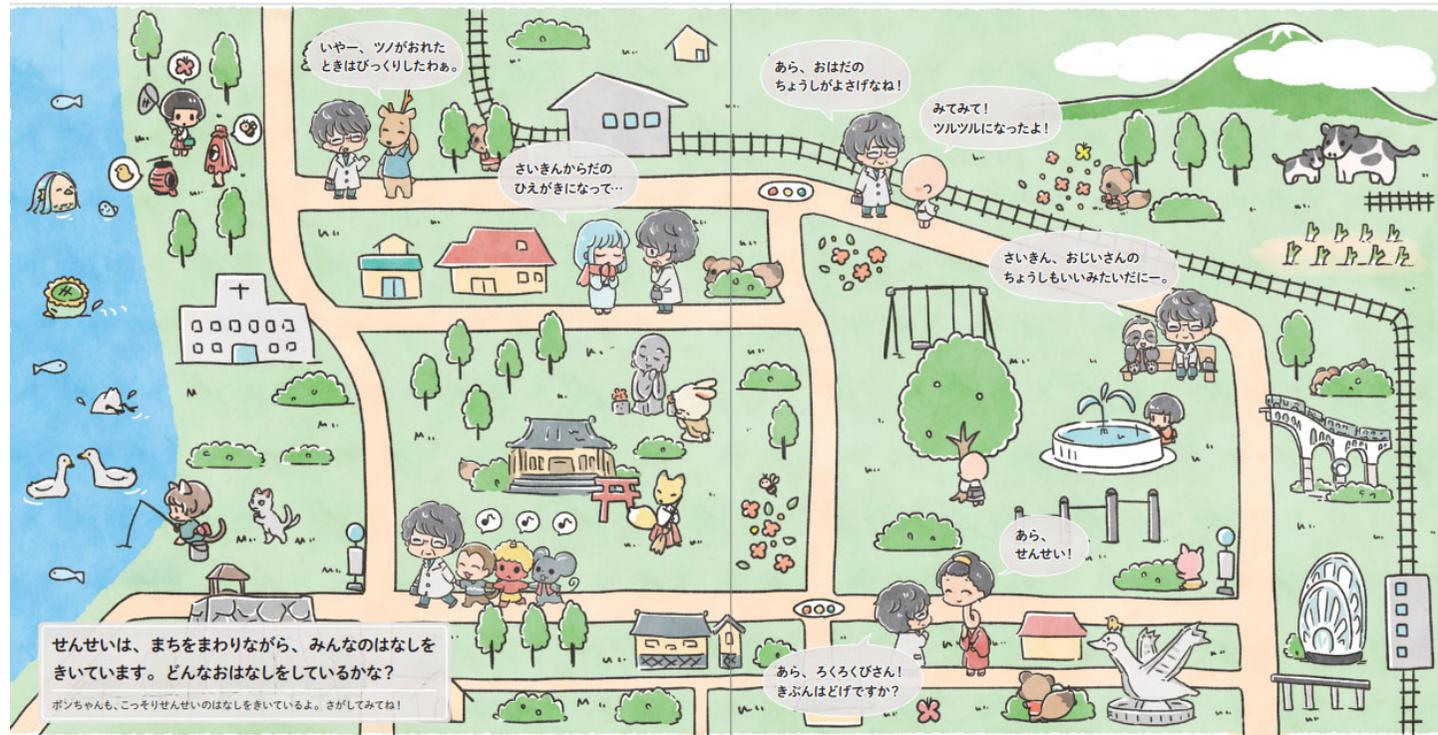
わたしのせんせい



はなみず ズピズピ とまらない。
ちょっと おねつも あるみたい。

工夫したポイント②(地元を身近に)

- 基本的に方言を使用
- 見開きのページには鳥取県西部に特徴的なもの・場所が登場
- 登場人物は妖怪・動物



工夫したポイント③(家庭医の視点)

- お医者さんは男性とも女性ともとれるキャラクター(多様性を尊重)
- 妖怪や動物といったいろんなメンバーから様々な相談を受ける(実際の家庭医をイメージ)
- あなたの専門家という視点

やってきたのは うさぎの おばあちゃん。

「うさえさん、こんにちは。

あしの ぐあいは どげですか？」

「まだ すこし えらいけど、
だいぶ よくなりましたわ〜。」



おお、
せんせい!

今後

- 今後、保育園や幼稚園、図書館など子どもが集まる施設に贈呈予定
- 希望する施設があればぜひご連絡を

